

平成27年9月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年10月20日

I. 概況

1. 売上高総額	1, 173億円余
2. 前年同月比	4.9% (6か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭3.7%(89.8%) : 非店頭16.8%(10.2%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年8月対比±0店)
5. 総店舗面積	856,710㎡ (前年同月比: 0.2%)
6. 総従業員数	18,894人 (前年同月比: 0.0%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	2-4月 -0.8%、3-5月 1.1%、4-6月 11.5%、 5-7月 8.1%、6-8月 6.4%、7-9月 6.1%

[参考] 平成26年9月の売上高増減率は0.5%

【9月売上の特徴】

- (1) 入店客数は天候不順により低調な滑り出しとなったが、シルバーウィークの好天や大型催事の好評などから0.7%のプラス。総額4.9%増で6か月連続前年を確保した。
- (2) 商品別には、主要5品目のうち衣料品が天候の影響を受けて僅かにマイナスしたものの、身のまわり品(+7.3%)、雑貨(+16.9%)、家庭用品(+8.0%)、食料品(+3.0%)が健闘。
- (3) 細分類では、紳士服が8月後半からの気温低下を受けて対応した秋物商材の手配や、催事・改装効果もあり高伸(+6.4%)。旺盛な消費意欲やインバウンド効果により化粧品(+30.0%)、美術・宝飾・貴金属(+16.0%)も2桁増の勢い。また、シルバーウィーク期間は行楽向け弁当が動き、惣菜(+4.6%)が6か月連続プラスとなったのも特筆される。
- (4) 個別商材は、紳士服が急激な冷え込みを背景にスーツやジャケットの動きが良かったほか、ビジネスシューズも好調。婦人服は今秋のトレンドとして注目されるコートとカーディガンが一体化した『コーディガン』や『ワイドパンツ』に人気が集まったものの、ベーシック商材の動きが伸びを欠き、前年堅調(+2.7%)の反動もあって3か月連続のプラスには至らず。また、天候与件により雨傘、レインシューズも大幅に伸びた。
- (5) 10月は適度な冷え込みと好天に加え、国慶節を軸としたインバウンド需要を受け15日現在+11%強で推移。天候条件や客数増を活かし、衣料品、身のまわり品、美術・宝飾・貴金属、食料品など幅広いアイテムに動きが見られ、今後に期待がかかる。

【要因】

- (1) 営業日数増減 30.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 7店、②変化なし: 3店、③減少した: 8店
- (3) 9月歳時記(シルバーウィーク、敬老の日、彼岸)の売上(同上/有効回答数12店舗)
①増加した: 5店、②変化なし: 7店、③減少した: 0店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年09月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	117,321,040	100.0	4.9
紳士服・洋品	9,591,786	8.2	6.4
婦人服・洋品	23,348,984	19.9	-3.1
子供服・洋品	2,152,172	1.8	6.8
その他衣料品	2,084,787	1.8	-2.8
衣 料 品	37,177,729	31.7	-0.3
身のまわり品	17,375,972	14.8	7.3
化粧品	9,697,574	8.3	30.0
美術・宝飾・貴金属	8,239,477	7.0	16.0
その他雑貨	5,308,256	4.5	-0.2
雑 貨	23,245,307	19.8	16.9
家 具	1,949,654	1.7	11.7
家 電	502,141	0.4	-7.9
その他家庭用品	4,184,265	3.6	8.5
家 庭 用 品	6,636,060	5.7	8.0
生 鮮 食 品	4,339,376	3.7	0.3
菓 子	6,914,212	5.9	3.3
惣 菜	6,210,109	5.3	4.6
その他食料品	8,265,340	7.0	3.1
食 料 品	25,729,037	21.9	3.0
食 堂 喫 茶	3,085,872	2.6	1.0
サ ー ビ ス	1,800,157	1.5	-18.2
そ の 他	2,270,906	1.9	4.9

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	1,926,684 千円	-12.4
従 業 員 数	18,894 人	0.0
店 舗 面 積	856,710 m ²	0.2

営 業 日 数	30.0 日	前年	30.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目では、身のまわり品、雑貨、家庭用品が6か月連続、食料品が3か月ぶりのプラスとなった。また、衣料品が3か月ぶりのマイナスとなった。その他の品目は、紳士服・洋品、化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他家庭用品、惣菜が6か月連続、子供服・洋品が3か月連続、家具、生鮮食品が2か月連続のプラス、その他食料品が3か月ぶり、菓子が2か月ぶりのプラスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	4.9	—	6か月連続プラス
紳士服・洋品	6.4	0.5	6か月連続プラス
婦人服・洋品	-3.1	-0.7	3か月ぶりマイナス
子供服・洋品	6.8	0.1	3か月連続プラス
その他衣料品	-2.8	-0.1	6か月ぶりマイナス
衣料品	-0.3	-0.1	3か月ぶりマイナス
身のまわり品	7.3	1.1	6か月連続プラス
化粧品	30.0	2.0	6か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	16.0	1.0	6か月連続プラス*
その他雑貨	-0.2	0.0	2か月連続マイナス*
雑貨	16.9	3.0	6か月連続プラス
家具	11.7	0.2	2か月連続プラス
家電	-7.9	0.0	3か月ぶりマイナス
その他家庭用品	8.5	0.3	6か月連続プラス
家庭用品	8.0	0.4	6か月連続プラス
生鮮食品	0.3	0.0	2か月連続プラス*
菓子	3.3	0.2	2か月ぶりプラス*
惣菜	4.6	0.2	6か月連続プラス*
その他食料品	3.1	0.2	3か月ぶりプラス*
食料品	3.0	0.7	3か月ぶりプラス
食堂喫茶	1.0	0.0	2か月ぶりプラス
サービス	-18.2	-0.4	3か月連続マイナス
その他	4.9	0.1	2か月連続プラス
商品券	-12.4	-0.2	7か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>